

刊夕日六十月六

愛兒の家庭學習

〔二〕

平第二小學校長 千葉右近 (談)

二、家庭學習の種類

では家庭に於て愛兒にさせる勉強にはどんな種類があるであらうか。その第一は児童の能力の程度によつて分けられる種類である。即ち前に述べた能力の低い児童にさせる「追ひかけの勉強」と、反対に能力の高い児童にさせる「充實發展の勉強」である。

第二は豫習と復習である

豫習といふのは之れから學校で學ぶことを前以て自分で一應調べておくことで、復習といふのは御承知の通り一度學校で學んだ事を今一應やつてみるとある。第三は深めたり、明かにしたりする勉強と、正しく速く出来る様にする勉強とである。例へば續本の文と譯を明かにし、その心持を味ふのは深め且つ明かにする勉強で、文を正しく読むことの練習をするとか鳴に讀める様に何遍となく漢字の書取をする事等は正しく速く出来る様にするための強である。

第四は仕事本位の勉強と時間本位の勉強である。仕事本位のといふものは一定

では家庭に於て愛兒にさせる勉強にはどんな種類があるであらうか。その第一は児童の能力の程度によつて分けられる種類である。即ち前に述べた能力の低い児童にさせる「追ひかけの勉強」と、反対に能力の高い児童にさせる「充實發展の勉強」である。

第二は豫習と復習である

豫習といふのは之れから學校で學ぶことを前以て自分で一應調べておくことで、復習といふのは御承知の通り一度學校で學んだ事を今一應やつてみるとある。第三は深めたり、明かにしたりする勉強と、正しく速く出来る様にする勉強とである。例へば續本の文と譯を明かにし、その心持を味ふのは深め且つ明かにする勉強で、文を正しく鳴に讀める様に何遍となく漢字の書取をする事等は正しく速く出来る様にするための強である。

第一の「追かけ勉強」か

「充實發展の勉強」かといふ

事については、その児童の

第二は豫習と復習である

豫習といふのは之れから學校で學ぶことを前以て自分で一應調べておくことで、復習といふのは御承知の通り一度學校で學んだ事を今一應やつてみるとある。第三は深めたり、明かにしたりする勉強と、正しく速く出来る様にする勉強とである。例へば續本の文と譯を明かにし、その心持を味ふのは深め且つ明かにする勉強で、文を正しく鳴に讀める様に何遍となく漢字の書取をする事等は正しく速く出来る様にするための強である。

第一の「追かけ勉強」か

「充實發展の勉強」かといふ

事については、その児童の

各科の成績について考へねばならぬ事であるから、一様に定める事は出来ない。

又、算術課では「追ひかけの勉強」を中心とせねばならぬ児童も、續方科に於ては寧ろ「充實發展の勉強」を主とすべき場合もあるであらう。

内科小兒科
耳鼻咽喉科

外科花柳病科
レントゲン科

院長 医學士 高久忠
副院長 新潟醫學士 赤羽清雄
薬局長 藥劑師 佐竹菊雄
平町田町 電話五一三番



定價一冊全員一ヶ
廣告料五銭十二字詰一行金五拾銭
日曜祭日 詞語六三〇多
發行者福島市平町田町三五
印刷所常磐毎日印刷株式會社
新報社

高久病院

吸人用酸素純度99%

衡量度モノサシ
ハカリス

器量計
寒暖計
體溫計

新發賣一文字帽!

絶体日焦げせず
雨にも丈夫な
いつも新らしい
實用新案帽

エバー・ニューリ・ストロー
四菱編
支那麥編
・六〇ヨリ

お電話次第御覽に入れます

玉屋洋品店

電話六五六番

社員採用

固定給參拾圓外手當支給
二十才以上五十五才迄
希望者は履歴書持參本人來談

日本商事株式會社平支部

公債券
現物買賣
擔保附

病室完備
自炊便有

山内醫院

醫學士山内亨吉

僅かの氷で非常に早くよく冷える
(丸ほん冷蔵器)

血液検査毎日
イッテモ入院出来マス

外科一般
内臓外科
レントゲン科
電話四〇番

醫學博士 北川芳夫
平町新川町(諸橋醫院跡)
電話四六四番

小林良次
電話四六四番

内科一般
内臓外科
レントゲン科
電話四〇番

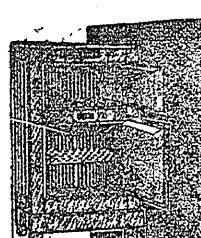
開内禁局

電話四〇番

外科一般
内臓外科
レントゲン科
電話四〇番

醫學博士 北川芳夫
平町新川町(諸橋醫院跡)
電話四六四番

小林良次
電話四六四番



御家庭にも御營業にも最も理想的な冷蔵器……
今年は外壁の絶縁装置を特に完全に改良を加へましたので
より一層僅かの氷で非常によく冷える様になりました。内
部の構造にも一大改良を加へましたので排水が良くすべて
便利になりました。またので排水が良くすべて貯藏さ

れる期間も延長されました。
價格は……精選した材料を完備した製法に依る大量
製造の爲め良品を廉價に御提供する事が出来ます。

丸ほん商店

株式會社
營業所平町三丁目一六
搬替東京二二七二四
電話一八二番

早くも郡内に水枯れ

田植期の農家に危機

天を仰ぎ雨乞ひの聲満ち

水争ひの惹起を憂慮する

磐崎方面に亀裂起る

梅雨期に入つて當然降雨を豫想された石城地方は小名濱測候所の毎日の天氣豫報を裏切つて昨今は好天候が續き漸く最盛期に入った地方農家は極度の水不足の不安に襲はれ、憂慮されてゐるが殊に磐崎村方面に於ては既に藤原川が渴水を來たとして同村内の各所に龜裂を生じる等早くも飢餓を招致農家は憂愁に閉ざされてゐるが一面此の水不足から必

然水争ひが各所に惹起するものと思はれるので郡農會方面でも注目して對策に腐心してゐる

雉も繁殖

永戸獵區に平賃体署では昨年永戸村國營獵區に小壽鶴を放して繁殖を計つたが更に矢吹國三羽の雌が産む卵を鶴に孵化させて居る

主將會議

鐵道の野球部 平牛町各小學校を視察した

平商將校出張 平商の佐藤配屬將校は今十六日仙臺第二聯隊に召集され出張したが歸校は二十一日頃の由

錦村の戸數割

錦村戸數割村會は本十六日午前九時から開いた

馬ネーデヤーは昨夜歸京した

た

リレー式の犯行?

巧妙な抜取の手口

東京營林局内に疑惑深まる

▼ 捜査の範囲を縮め

【昨報】植田營林署の奇怪な小切手抜き取り事件に就いては、縣刑事課が植田平兩署を督勵する一方警視廳と連絡犯人捜査を続けてゐるが

盗み去られた額面四千九百三十圓の小切手は他の二百四圓の小切手並に重要書類と共に同封の書留郵便で發送されたもので封筒は封印してから開封された跡が歴然としてあり且つ東京營林

署の封印が同一ヶ所にダブツて捺印されて居る等不審の点多く犯行は東京營林署と植田營林署との間に於て拔き取られたと見られるに至つたため犯人は東京營林

局内部の事情を知悉した局内の者が二三リレー式に行つたものと見る意見が有力となつて來て居り、捜査範囲は狭められて全力を此の方面に向けてゐる模様である

所持金を使ひ果し

捕はれた駆逐者

「死んでも離れぬ」御執心

主家から盗み出し

郷里に舞戻つて

不覺郡山署員に逮捕さる

リヤカート

盜品運搬中

平署員が逮捕

見れば盗みたくなる元坑夫

手當り次第に稼ぐ

裁判一束

裁判一回

人を求める方

農業四十才迄月給二十

△荷上人夫卅二才尋四

△精米夫二十四才尋卒

△荷上人夫卅二才尋四

△精米夫二十四才尋卒

美人局起訴

近く公判に

既報内線の妻を美人局にし

て他から金を捲き上げた平

</div

青木彌太郎は傳馬町の揚
り座敷に監禁されてゐたが
折々お花から懷中汁粉の差
入があるこれには時々刻々
に變り行く江戸の様を書いた密書かしのばせてある、
彌太郎はこれを見る度に幕府の末路の近づきしを歎き
俺が世に居れば同志と共に
つくすことも出来るが、今は懐にとらへられた獸とひ
としく一寸もこゝを出るこ
とはならぬ、ハテ何とした
ものかとごう間にかかるよ
りこのはうがつらひといひ
ました。

こちらはお花、女ではあるがこれも徳川の祿を食す
だ者の娘、徳川家の瓦解を
目の前に見て笑つてゐられない、何うせひどい入つた
体、役人の手にとらへられ
ば相當な處刑をうけねば
ならぬ、今日まで命のあつたは不思議、今倒れむとする
徳川様のためにつくして
快く死なうと決心して、こ
で男装して八丁堀のあさ
り川岸に居つた剣道の大家
桃井春造先生について鏡心
明知流の剣術を學び、また
神田お玉ヶ池の磯又右衛門
に從ひ稽古をした、

稽古がはじまると伊織を見
てゐる、中にも萩のくねり
汗をながして出て來たが時
しも秋のこと庭に打水をしてゐる、奥へ連れて行き
春「しばらくこゝに居れ」と春造先生は風呂に行き
こと、美人が男装してゐる、近所の娘子供は剣術の見
事だ、全身に朱入りの刺青があるな



(絵上映上) 悟道軒圓玉 (作)
丸・尾至陽 (著)

一四八 男装したお花

元來男のやうな氣性のお花

とて日々にその技は進歩す
る、桃井春造は本所龜澤町
の谷下總守、それに番町の
齊藤彌九郎とならび稱され

た斯道の大家毎日道場に出
道場にある

春「伊織、風呂に入つて汗
をながせ」

伊「風呂はおことはり申し
と短刀直入いたい所を突
いた

春「他の者の目は曇つて居
るが俺の目には曇りがない
如何に男の如き扮裝をいた
し居るとも自然と知れる、
まして貴様は風呂に入らぬ
て」

伊「お察しの通り女でござ
いますよ」

春「さうであらう、又貴様
は淺草寺境内にて茶店をひ
つとも木曾義仲の愛妻巴は
男子もおけばぬほどの勇猛
な女であつたとのこと、また
板額は鐵の門を破りしこ
ともある、男子にまさりし
女もあれど、浮いた稼業を
した貴様が剣術を學び軍人
になるとは何ぞのぞみがあ
つてのことであらう、それ
を申せ」と問ひました。

春「まづ一杯やれ、俺が酌
をしてやる、これ伊織、貴
様は女だな、男ではあるま
い」

伊「それは變つて居な、
ですよ、わたしは軍人にな
りたいと思ひまして」

春「梅雨の季節に入りました、皆々様の御清祥を御
慶び申上げます。」

春「さて弊店も皆々様よりの多大の御引立に預り日
に増し繁榮致して居ります事を深く感謝して居
る次第で御座います。」

春「就ては今度の道路改修のため左記の場所へ移轉
致しました。今後益々誠心誠意をもつて商人の
使命を果したく親切をモツトとして商務に精
勤致す覺悟で御座います。今後共相變らず伏し
て御願ひ申上げます。」

春「平町五丁目二十四番地(釜屋ノ向)

平三丁目

落花生問屋

叶星號 加藤商店

平三丁目

本位主

○

例年通り豊富に取揃へ、良き品を安く御得意
入り、デーツと虫が鳴く

酒肴を取寄せ

春「まづ一杯やれ、俺が酌
をしてやる、これ伊織、貴
様は女だな、男ではあるま
い」

春「まづ一杯やれ、俺が酌
をしてやる、これ伊織、貴
様は女だな、男ではある